

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

## ミケランジェロの暗号

2010年・オーストリア映画  
配給/クロックワークス、アルバトロス・フィルム  
106分

2011 (平成 23) 年 10 月 1 日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

監督: ウォルフガング・ムルンベルガー

脚本: ポール・ヘンゲ

出演: モーリッツ・ブライプトロイ  
/ゲオルク・フリードリヒ/  
ウルズラ・シュトラウス/マ  
ルト・ケラー/ウド・ザメル  
/ウーヴェ・ポーム/メラ  
ブ・ニッツェ/ライナー・ボ  
ック

### 👁️👁️ みどころ

ナチス・ドイツによるユダヤ人の悲劇をテーマとしながら、『イングリアス・バスターズ』(09年)にも共通するユーモアいっぱいの傑作が誕生!『ヒトラーの贗札』(06年)も面白かったが、第1に絵画の真贋と、第2に親衛隊とユダヤ人の「チェンジリング」をテーマとした本作はもっと面白い。

原題も英題も「私の好敵手」だが、邦題の「暗号」の意味は?ある「遺言」の意味が明かされる結末に、思わずカイカン!

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ■□■二匹目のどじょうがここに! ■□■

鳩山由紀夫・菅直人と出来の悪い民主党の総理大臣が2代続いた日本では、民主党3代目の野田「どじょう内閣」が登場したが、さて、その実力のほどは・・・? 2011年8月29日の民主党代表選挙における野田佳彦候補の演説によって俄然人気が高まったのが、あいだみつお氏の「どじょうがさ 金魚のまねすることねんだよなあ」という詩だが、いつまでもどじょうのままでは、3. 11東日本大震災での被災地は、そして日本は浮かばれず、いつか金魚にならなくちゃと私は思っている。

他方、オーストリアを代表するウォルフガング・ムルンベルガー監督は、第80回アカデミー賞外国語映画賞を受賞した『ヒトラーの贗札』(06年) (『シネマルーム18』26頁参照) に続いて、「真贋」をテーマとする本作で二匹目のどじょうを狙い、見事にそれを成功させた。柳の下に二匹目のどじょうがいたわけだが、それは一体なぜ?

### ■□■絵の贗作など、贗札造りに比べれば・・・? ■□■

贋札造りは、国家的な犯罪だが、絵の取引を巡る真贋論争などは、いくらミケランジェロの名作と言っても所詮私的取引の問題の範囲内。私はそう思っていたが、ナチス・ドイツがイタリアとの同盟を確固たるものにするために、ムッソリーニにミケランジェロの絵を贈るともなれば、その真贋は国家的一大事。400年前にバチカンから盗まれたというミケランジェロの幻の名画を、同盟の証としてムッソリーニ総統に贈ったのに、イタリア人の鑑定人が断言するように、もしそれが贋作だとしたら・・・？

スクリーン上では、1943年の某時期にヒトラーがムッソリーニとどういう手順で「ご対面」すべきかをめぐって互いの幹部たちがやりあうシーンが登場するが、鑑定人が言うように、そんなくだらないことに神経を使わず、絵の真贋をきちんと解明しなければ・・・。

この絵は、親衛隊が今から5年前の1938年に、ウィーンで画廊を経営する裕福なユダヤ人ヤコブ・カウフマン（ウド・ザメル）から没収したものだが、その絵が贋作！そんな馬鹿な！そんな種や仕掛けは、一体誰がいつ？『ヒトラーの贋札』も面白かったが、本作もメチャ面白い。



『ミケランジェロの暗号』 9/10（土）より TOHO シネマズシャンテ他にて公開  
(c) 2010 AICHLER FILM & SAMSA FILM ALL RIGHTS RESERVED

## ■□構成の妙に感服！■□■

日本海軍による真珠湾の奇襲攻撃は1941年12月8日（日本時間）だが、これによって戦争のあり方がそれまでの「大艦巨砲主義」から「航空機決戦主義」に大転換！いくら軍艦から機銃を発射しても、航空機のスピードが速ければなかなか当たるものではないことは常識的に考えればわかるが、本作冒頭には面白いシーンが登場する。それは、夜の

暗い中を飛んでいる1機の飛行機を、土の上に仰向けに寝転がった兵士たちが空に向けた機関銃を、望遠鏡を持ったリーダーのかけ声に応じて一斉にぶっ放すシーン。この一斉銃撃によって、銃弾は見事に上空の飛行機に命中。たちまち火を噴いた飛行機は地上に墜落したが、さて、この飛行機には誰が？また、こんなゲリラ戦法で見事に飛行機を撃ち落とした部隊とは？

映画はその後、父親ヤーコブ・カウフマンの片腕としてウィーンの画廊を切り盛りしている息子のヴィクトル・カウフマン（モーリッツ・ブライプトロイ）のもとに、久しぶりに親友のルディ・スメカル（ゲオルク・フリードリヒ）が戻ってくるシークエンスが描かれる。そして、某所に隠してあったミケランジェロの絵のありかをヴィクトルがルディに教えたため、親衛隊に寝返ったルディやその上司であるヴィドリチェック大佐（ウーヴェ・ボーム）たちによって没収されるとともに、ユダヤ人であるカウフマン一家が強制収容所に送られるという悲しいストーリーが展開していく。そのストーリーが一段落すると、今度は没収したミケランジェロの絵が贋作であったと判明する、前述した1943年のシークエンスだ。そこで、ヴィドリチェック大佐がルディに下した命令は、ポーランドの収容所にいるヴィクトルを尋問し、何が何でもホンモノのありかを聞き出すこと。ポーランドの収容所で5年ぶりにヴィクトルに会ったルディは、ヴィクトルから「母をスイスに移してくれたら教える」と言われると、逆にヴィクトルをベルリンへ移送して尋問することになったが、そこで乗り込んだ飛行機がポーランド上空でパルチザンたちに撃墜されたわけだ。映画冒頭のシーンが、その後1時間弱のストーリー展開を経て、「なるほどこういう流れだったのか」と誰もが納得する形で登場してくると、その時点で「構成の妙」に感服！

幸いヴィクトルもルディも命は助かったが、右足を負傷したルディは歩けない状態。2人はやっと今小屋の中に入ったが、ここをパルチザンたちが襲ってくれば・・・。

## ■□「チェンジリング」の妙をタップリと！■□

アンジェリーナ・ジョリーが第81回アカデミー賞主演女優賞を受賞した『チェンジリング』（08年）での最大のポイントは、「取り換えられた子供」というタイトルどおりの失踪、発見、別人という導入部を経て、権力、悪魔、事件という後半のストーリーの軸の中で描かれる、ロス市の腐敗と闘い続けるヒロインの姿だった（『シネマルーム22』51頁参照）。他方、クエンティン・タランティーノ監督の『イングリシアス・バスターズ』（09年）は、アメリカの特殊部隊イングリシアス・バスターズを率いるブラッド・ピット扮するアルド・レイン中尉が、後半ナチス親衛隊のランダ大佐に「チェンジリング」していったことから大事件が・・・（『シネマルーム23』17頁参照）。しかして、本作が見せつけてくれる「チェンジリング」の妙は、あの小屋の中でヴィクトルとルディが「チェンジリング」することによって、以降あっと驚くストーリーが展開していくことだ。パルチザンが小屋に突入してくれば、ナチス親衛隊のルディは確実に処刑。しかし、もし彼が囚人服

を着たユダヤ人だったら？そう考えたヴィクトルは自分が着ていた囚人服をルディに着せ、ルディの親衛隊の服装を隠そうとしたが、それはなぜ？それは、ここに至ってもなおヴィクトルが、カウフマン家に25年間も仕えてきた使用人の息子だったドイツ人のルディのことを親友と思っていたためだが、実際に突入してくるのがパルチザンではなく、飛行機が墜落したことを聞いて救援に駆けつけてきた親衛隊であることに気づいたヴィクトルは、とっさに捨てようとしていた親衛隊の軍服に身を包んだから、ルディはビックリ！こりゃ一体どうなってるの？

さあ、見事にルディへの「チェンジリング」に成功したヴィクトルのその後の立場と運命は如何に？逆に一転囚人服を着たユダヤ人になってしまったルディの運命は如何に？



『ミケランジェロの暗号』 9/10 (土) より TOHO シネマズシャンテ他にて公開

(c) 2010 AIGHOLZER FILM & SAMSA FILM ALL RIGHTS RESERVED

## ■□■やっぱり芝居には、相方が大切！■□■

『ライフ・イズ・ビューティフル』(97年)と『聖なる嘘つき その名はジェイコブ』(99年)は、ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害を描いた名作中の名作で涙を誘う映画だった(『シネマルーム1』48頁参照)(『シネマルーム1』50頁参照)。また6月10日に観た『黄色い星の子供たち』(10年)も涙を誘う映画だった。しかし、『ヒトラーの贗札』も本作もユダヤ人の悲劇を描きながらも、なぜか涙とは無関係。それは、ミケランジェロの絵の真贋をめぐってスリリングな展開が続いていくにもかかわらず、チェンジリングしたヴィクトルとルディのその後の動きを観客は少しユーモアをもって見るためだ。

それをさらに助長するのが、ヴィクトルの恋人であり、カウフマン一家が強制収容所に送られた後はカウフマン一家の財産一切を譲り受けた女性・レナ（ウルズラ・シュトラウス）が、緊迫の場面で何ともまいお芝居をすること。ルディになりすましたヴィクトルが「絵はスイス銀行の金庫にあり、ヴィクトルと母が立ち会ってサインしないと開けられない」とベルリンに報告したため、今なお生存中のヴィクトルの母ハンナ・カウフマン（マルト・ケラー）に同行することになったのが、今はルディと婚約し、軍の無線担当をしているレナ。ポーランドに飛んでヴィクトルとルディに再会すれば、当然どちらがヴィクトルでどちらがルディかはバレバレ。するとこれにて、ヴィクトルの命運は尽きるのか？誰もがそう思ったが、やっぱり芝居には相方が大切。レナが「ルディ！」と叫びながらその胸の中に飛び込んでいったのは、何とルディに扮したヴィクトルだったからビックリ。しかし、いつまでこんな危険な綱渡りの芝居が続けられるの？

## ■□■恐るべし！ユダヤ人の交渉力！■□■

ポーランドの小屋でとっさに思いついた「チェンジリング」と、その芝居の相方レナの名演技によってヴィクトルは今窮地を脱しかけていたが、ここまでだって綱渡りの連続だから、いつかはこんな芝居はバレてしまうのでは？映画の脚本としても当然そうしなければ面白くないから、ある日ある事情によって形勢は再び逆転し、再びナチス親衛隊の制服はルディの身につけられることに。さあ、ミケランジェロの絵の在り処は？結局その所在は今では亡きヤーコブ・カウフマンしか知らなかったわけだが、そうなれば、あとはヤーコブの合理的な意思を推測して隠し場所を探すしかない。しかして、ルディが遂に「本物」を発見した隠し場所とは？

これにて万事休す。観客は誰もがそう思ったはずだが、ユーモアたっぷりに作り上げられた本作は、何とこのタイミングでムッソリーニ失脚のニュースを報じたから、さらにストーリーは大転換！ムッソリーニが失脚すれば、ナチス・ドイツの崩壊も近い。そうすると、それまでは憧れだったナチス親衛隊の今後は？そんな風にヴィクトルから今後の身の振り方を暗示されたルディは、ミケランジェロの絵とウィーンの画廊をもらい受けることを条件にヴィクトルの命を助けることを承諾したから面白い。9月29日に観た『孔子の教え』（09年）における孔子の交渉力もすごかったが、恐るべし！ユダヤ人の交渉力！平和ボケした今の日本人は、こんな交渉力を見習わなければ・・・。

## ■□■この遺言の意味は？このカイカンはどこから？■□■

本作はミケランジェロの絵の真贋がストーリーの軸だが、その中で面白いのがヴィクトルとルディの人間関係。しかして、本作の原題も英題も「私の好敵手」だが、邦題は「ミケランジェロの暗号」。映画は冒頭の飛行機が墜落するシークエンスの後、主に①1938年のオーストリアのウィーン、②1943年のドイツ・ベルリン、を舞台として展開され

るが、ラストは戦後。ヴィクトルとの約束（密約？）どおり画廊の主となったルディは、平和を取り戻したウィーンで、今絵画のオークションを開こうとしていた。例のミケランジェロの



絵も飾られたオークション初日 **『ミケランジェロの暗号』 9/10 (土) より TOHO シネマズシャンテ他にて公開**  
(c) 2010 AIGHOLZER FILM & SAMSA FILM ALL RIGHTS RESERVED

には大勢の客が押し寄せ、ルディはその対応に大わらわ。そこに「本物の愛」を実らせたヴィクトルとレナの2人が母親ハンナとともに駆けつけてくれたから、ルディは大喜び。ヴィドリチェク大佐の命令によってヴィクトルとその両親が強制収容所に送られた後、ルディは「偽りの愛」の中でレナと婚約し、同居していたが、その時家の壁に飾られていたのがヤーコブの肖像画。しかし、いつもこれに見張られているような圧迫感を覚えていたルディは、いつの頃からかその絵を撤去させていた。しかしウィーンに平和が戻った今、ヴィクトルやハンナにとってこの肖像画は何よりもヤーコブのことを思い出させるものだから、今日ヴィクトルたちが画廊にやって来たのはこの絵を買い戻すため。そんな話を聞いたルディは今や大金持ちだから鷹揚に「その絵はプレゼントするよ」と言ってくれたから、ヴィクトルたちは大喜び。ところがそんな中、ミケランジェロの絵をチェックした、「あの時」のイタリア人の鑑定人がこのミケランジェロの絵は贋作だ！という爆弾発言を！このミケランジェロの絵は、あの日旅行鞆の中に亡ヤーコブが隠していたものをルディが推理を働かせてやっと探り当てたものだから、本物に違いない。ルディはそう確信していたのに、この鑑定人の発言は一体ナニ？

私たち弁護士はいつも依頼者に「遺言のすすめ」を説いているが、強制収容所の中で多くのユダヤ人から慕われながら亡くなったヤーコブが息子のヴィクトルに言い残した遺言は、「視界から私を消すな！」という訳のわからないもの。ところが、その遺言の意味がラストに至ってやっと判明！狼狽するルディを尻目に、悠然と画廊から姿を消していくヴィクトルたちの姿を観て、観客は思わずカイカン！ここではじめて観客は、『ミケランジェロの暗号』という邦題の奥深さに感服するはずだ。

2011 (平成23) 年10月5日記